

“幸せな帰町・復興”に向けた国際フォーラム『被災地・広野町から考える』
From “Early Return” to “Happy Return”

セッション15 『ジャーナリストの役割』の概要

日時：平成27年9月18日（金） 14:00～17:00

場所：広野町中央体育館アリーナ

被災地の復興におけるジャーナリストの果たす役割への期待は極めて大きく重い。ジャーナリストは、被災地全体を広く捉える『鳥の目』、問題を厳しく見つめる『鷹の目』を持ち、加えて、広く世の中に伝える手段を手にされている。

このセッションでは、ジャーナリストが被災地全体の復興に向けて果たし得る役割について、被災地で取材に当たっておられる記者の方々と参加者が直接意見交換しながら様々な角度から掘り下げ、被災地の未来に繋げることとする。

- 1) セッション・コンビーナー：福島工業高等専門学校 副校長 芥川一則
- 2) パネリスト（順不同）
福島民報、福島民友、河北新報、朝日新聞、NHK、
海外ジャーナリスト：Claude-Marie VADROT
- 3) セッションの進行
 1. パネルストの自己紹介
 2. 震災からこれまでの報道で印象に残ること
 3. 復興に対する現状認識
 4. 復興に求められること
 5. 復興においてジャーナリストが求められること

以上のテーマについて、会場からの参加（質問・意見など）を求めつつ問題を掘り下げる。

開場は、体育館のアリーナ、席には十分余裕があります。

同時通訳が付きますので、日本語で思う存分にご意見を頂ければ幸いです。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。